

令和元年度練馬区立北町小学校 学校評価

1 自己評価結果

(1) 概要

① 成果

- ・子供が楽しく学校に通っているという項目には児童からも保護者からもよい評価をいただいた。また、学校全般のことに対して、保護者から肯定的な意見を多数いただいた。
- ・子供に分かりやすい授業、基礎的・基本的な学力の定着については、都の学力調査の結果から、今年度も維持できた。学習中の発言の項目は高い評価ではないが、進んで自分の意見を発言していると考えられる児童の割合が増えた。校内研究のテーマである伝え合う力の育成で取り組んだ成果と捉える。
- ・本校の特色として、地域や人、自然とのかかわりを重視した体験活動を取り入れた教育活動は、計画的に取り組むことができ、保護者から高い評価を得ることができた。

② 問題と改善策

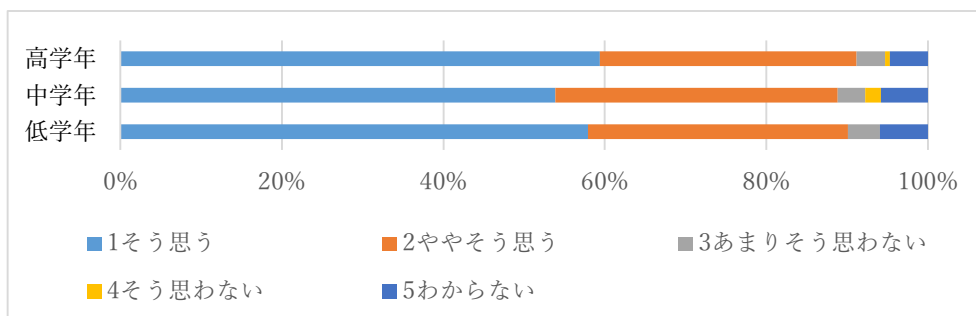
- ・学校を楽しめないと感じている児童もいる。一人一人の児童に寄り添い、学校が児童にとって達成感や充実感を味わえる場所になるよう教員の資質の向上を図る。
- ・相手を思いやる心情や耐性の育成を本校の課題と捉える。道徳や人権教育を見直し、心の教育の充実を図る。そのために道徳授業地区公開講座での実施方法を工夫したり、ふれあい月間における人権教育の推進などに取り組んだりする。
- ・あいさつやあとしまつなど基本的な生活習慣を改善させるために、教員の共通理解を深めるとともに保護者や地域との協働育成を推進する。
- ・児童の学力向上を図るためにOJTを推進し、教員の授業力の向上を図る。

(2) 根拠となる資料：保護者による学校評価アンケート集計結果より

*学校評議員評価は、「A=あてはまる」を3点、「B=ややあてはまる」を2点、「C=ややあてはまらない」を1点、「D=当てはまらない」「E=よくわからない」を0点として、平均点を算出した。

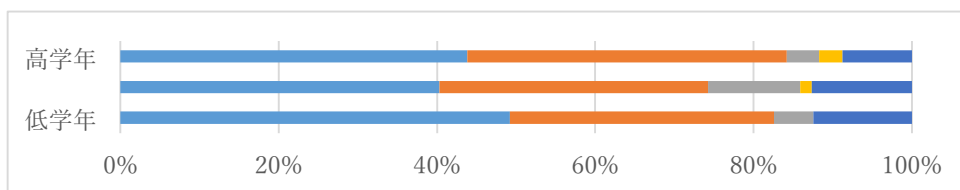
1 児童の資質・能力の育成

質問1；児童は、学級活動や委員会・クラブ活動等を通して、友達と助け合いながら学校生活を送っている。



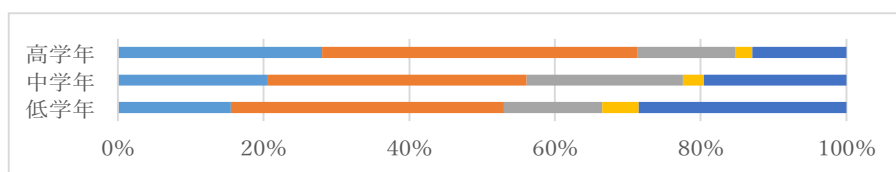
(評議員評価：2.5 / 3)

質問2；児童は、たて割り班による遊びや給食において、他学年やすまいる学級との交流に積極的に参加している。



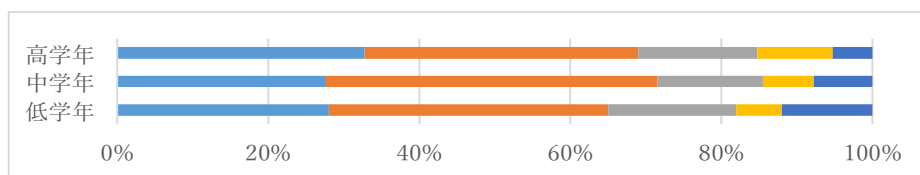
(評議員評価：2.1 / 3)

質問3；児童は、「特別の教科道徳」を通して、自己を見つめ、よりよく生きることにについて考えている。



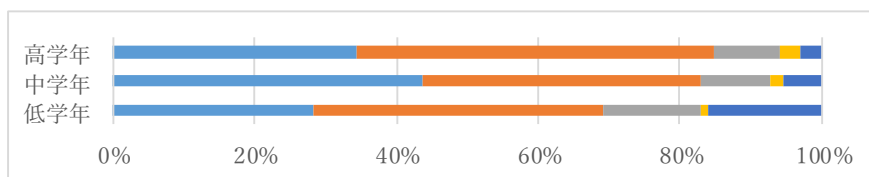
(評議員評価：1.9 / 3)

質問4；児童は、オリ・パラ教育を通して、日本や外国の文化や環境に興味をもっている。



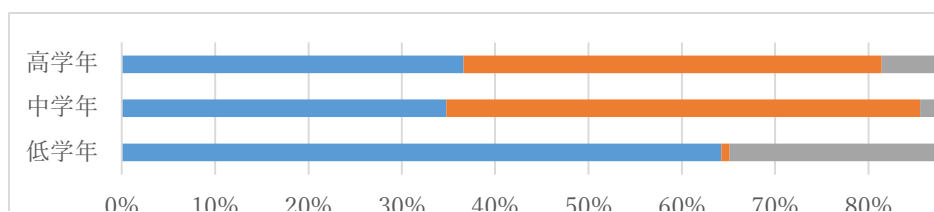
(評議員評価：2.3 / 3)

質問5；児童は、「北町タイム」「ぐんぐんタイム」「算数習熟度別指導」などを通して、学習の基礎・基本を身に付けている。



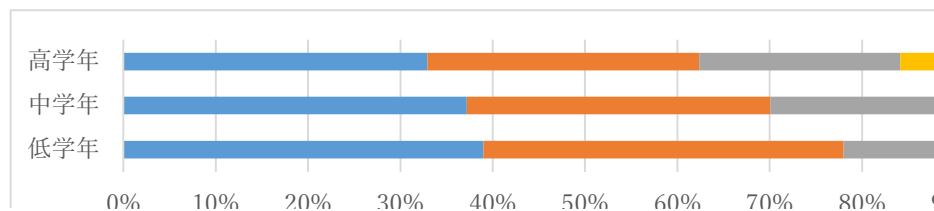
(評議員評価：2.5 / 3)

質問6；児童は、学習の「発表」の場面で、自分の考えを友達に伝えたり友達の考えを聞いたりしている。



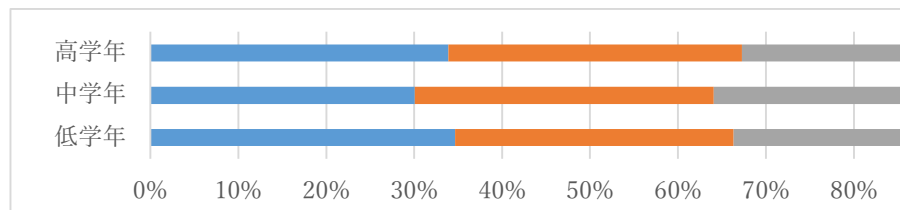
(評議員評価：2.3 / 3)

質問7；児童は、「読書タイム」「読書月間」などを通して、本に親しみ本を読む習慣を身に付けている。



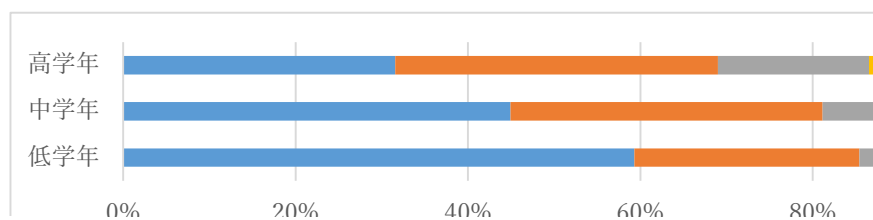
(評議員評価：1. 8 / 3)

質問8；児童は、体力テストの結果や体育の授業を通して、自己の体力向上を目指している。



(評議員評価：2. 0 / 3)

質問9；児童は、「体育朝会」「縄跳びタイム」など運動に関わる取組や、休み時間の外遊びに積極的に参加している。



(評議員評価：2. 0 / 3)

<評価結果と次年度の改善策>

○評議員より

- ・学校の教育活動を様々な場面で公開しているが、質問1の学級活動(学級会、係や当番の活動)や委員会・クラブ活動、質問2のたて割り班による遊びや給食において、他学年やすまいる学級との交流等について、保護者は、どのように行われているか、見ていない、もしくは知らないのではないだろうか。
- ・特別な教科道徳について、新しい教科として保護者へのアピールが不足していることが、評価を下げる要因だと思われる。しっかりと取り組んでいるのだから、さらに訴えて良いと思います。家庭でも、子供と道徳について話し合ってもらいたいと思う。
- ・オリパラ教育についても、子供たちに興味を持てるよう良く取り組んでいる。評価という面では、オリパラ教育の意義も含め、教育内容の保護者への説明が足りていないのかも知れない。
- ・年齢とともに、発表の場面で恥ずかしや躊躇などを感じているようだ。工夫とともに活動の楽しさを指導してほしい。
- ・読書習慣を身に付けさせるには、学校のみならず、家庭における読書環境の整備も不可欠なので、家庭への啓発も必要だと思う。

<学校として>

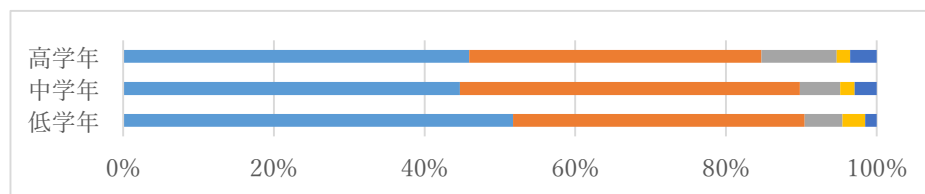
どの質問に対しても、「そう思う」「ややそう思う」の肯定的な評価が80%を超えている。中でも「特別活動によって育まれる助け合いの態度」については、肯定的な評価が90%以上と高く、本校児童の特色となっていることが成果として表れている。「異学年交流への参加意欲」は高いが、一方で「思いやりの足りない言葉遣いが気になる。」というご意見もいただいているので、交流を通して、相手を理解したり思いやったりする心情を育成していけるよう、内容を工夫していく必要があり、課題である。

「特別の教科道徳」や「オリパラ教育」については、学校の取り組みが紹介しきれていないところがあるかと考えます。土曜公開などを通して引き続き伝えていく。

「北町タイム」や「ぐんぐんタイム」などによる「学習の基礎・基本の定着」については、学年が上がるにつれて肯定的な評価が高まっており、ゆっくりと成果が表れている。逆に「本に親しむ習慣」については学年が上がるにつれて評価が下がっており、高学年になると活動が広がり時間的にゆとりがなくなっている。読書は心を豊かにするものであり、「読書タイム」や「読書月間」に積極的に参加するよう取組を行っていく。家庭でも読んでいる本について話題にできるような取組や啓発する活動等工夫していく。

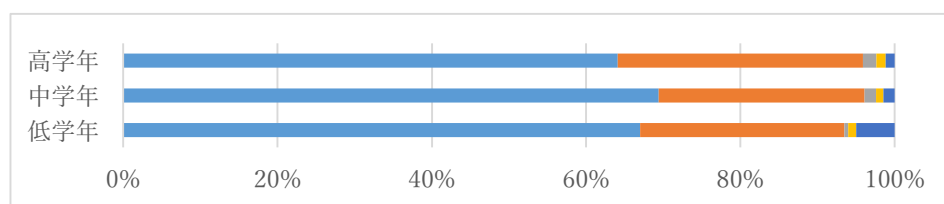
2 教育の場の設定

質問 10；学校は、「学校便り」「メール配信」「ホームページ」などで必要な情報を発信している。



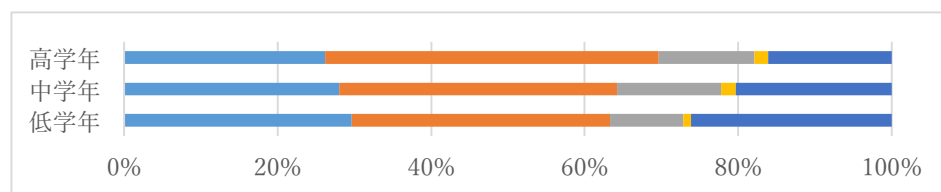
(評議員評価：2. 3 / 3)

質問 11；学校は、地域と協力し、その良さを生かした取り組みを行っている。(町探検、校外学習、施設見学、商店街インターンシップ、地域安全マップなど)



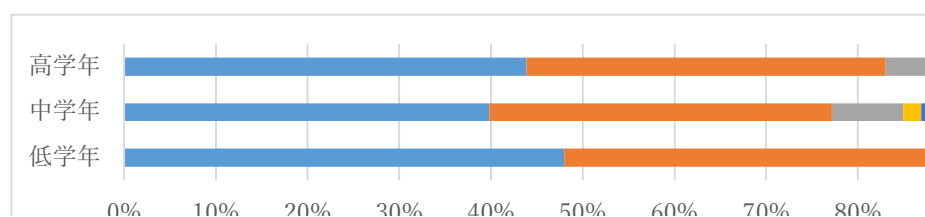
(評議員評価：2. 7 / 3)

質問 12；学校は、体育科の授業研究を行うことにより、児童の体力や技能の向上を図っている。



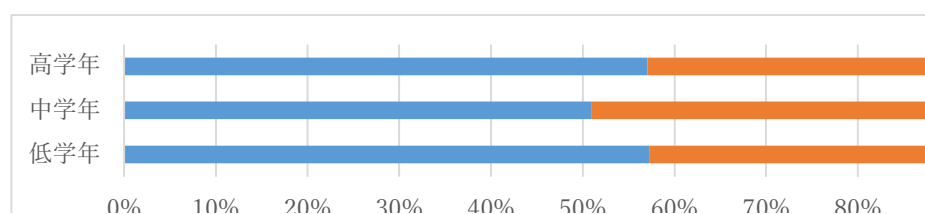
(評議員評価：1. 7 / 3)

質問 13；学校は、職員が協力して、児童が安心して学ぶことができる環境作りをしている。



(評議員評価：2. 2 / 3)

質問 14；学校の教職員は、場に応じた服装や言葉遣いをしている。



(評議員評価：2. 3 / 3)

＜評価結果と次年度の改善策＞

○評議員より

- ・地域との連携については、十分に取り組んでいる。町探検、インターンシップ、地域安全マップ作り等、地域に実際出て、活動し学ぶことができています。引き続き連携を深めてほしい。
- ・教職員の日々の研鑽を感じる。これからもしっかりと取り組んでほしい。

＜学校として＞

おおむね肯定的な評価をいただいた。特に「地域との連携」については、日頃より地域の方には様々な協力をいただき、教育活動が充実してきた。保護者にもしっかりと理解いただいていることが分かった。今後も本校の特色として大切に継続していく。

体育科の授業研究による「体力向上」については、質問 8、質問 9とも関連し、全体の中で、やや低い評価となった。次年度は、研究の柱を「特別の教科道徳」とし、心を育てる教育を継続していく。豊かな心や学力を支えるたくましい体作りについて、しっかりと取り組んでいく。

2 学校関係者評価

(1) 総括

① 成果

- ・年々子供たちがよくなっているように思う。優しい心をもった子供が多い。放課後や学校公開で子供たちを見るが、楽しそうに過ごしている。教員や地域の目がゆき届いているのを感じる。
- ・問題が起きたときの学校の初期対応が迅速でよい。個々にはいろいろな問題が起きていると考えられるが、周囲を考えられる児童が増えている。道徳の授業もよい内容で、テーマについて考え改善しようとする態度が見られる。
- ・特別支援学級と通常学級の交流で人とのかかわり方など学べるものは大きい。これからも取り組んでほしい。

② 問題と改善策

- ・児童の発言意欲は学年や年齢によって異なる。高学年になるほど発言は少なくなる。
→発達段階を考慮すると発言は少なくなるが、結果を踏まえ、さらに授業を改善してほしい。
- ・学習規律について教員の評価が低い。話の聞き方や学習準備に課題があるようである。
→教師の評価が高くないことは、良いことと捉える。教員が課題意識をもち、さらに引き上げたいと考えて指導することを期待している。北町小スタンダードを基本指導事項として、共通理解のもと、全校で取り組むことが大切である。
- ・家庭学習の習慣が身に付いていない児童がいる。家庭学習を増やしてほしいと望む保護者もいれば、手をつけていない児童もいる。
→家庭学習の習慣化については、家庭の協力も必要である。家庭と学校が協力して取り組み学力を向上させる必要がある。
- ・あいさつやあとしまつを課題と考える家庭や教員の割合が多い。特にあとしまつは家庭においても課題と捉える割合が増えている。
→生活指導全般において教員の評価が厳しいというのは、良いことである。児童とはこうあるべきという姿を念頭におき、指導することが望ましいと考える。全校で規律を身に付けさせる指導をしてほしい。

(2) 根拠となる資料 (上掲資料)

3 評価結果の公表等

校内では、評価結果を参考にしながら、新年度計画を検討協議した。その中で、すぐにも改善できること、改善に向けて努力していくことなど来年度に向けての学校としての考えをまとめ、学校からの回答も記述して「北町小学校アンケート結果」としてまとめた。A4判6ページにまとめた「北町小学校アンケート結果」は、3月24日(火)に全家庭、地域の方、関係者の皆様に配布し、北町小学校ホームページに公開する。学校からの回答としたものについては、教育課程の中に位置づけたものもある。努力目標としたものについては、新年度各担当主任を中心に検討することとし、改善できること・改善するための障害などを明らかにさせる。

4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

- この数年、重点課題として取り組んでいる「心の教育」の充実に関して、子供たちの「思いやりの心」の育成は残念ながら十分であるとはいえない状況である。
 - ・いじめとして取り上げるような事例は起きていないが、からかいや意地悪、乱暴な言葉遣いを平気でしているという実態が見られる。改めて道徳や人権教育等の指導計画を見直し、心優しい子供の育成に全校挙げて取り組む。特に自他の生命尊重、人権尊重に関わる指導については、教員の指導力を高めるとともに道徳教育や特別活動を意図的計画的に進める。校内研修を「特別な教科 道徳」とし、児童の心を育て、生きる力の育成を図る。
 - ・いじめ防止に関しては、学校組織をあげていじめは絶対許さないという毅然とした態度で取り組む。また、都や区のふれあい月間と連動させて6月・11月・2月には子供にアンケートを採り実態把握に努める。あわせて児童との個人面談を実施して、児童間の問題の早期発見、早期解決に取り組む。
- 基礎的・基本的な学力の定着では、85%の児童が授業は「わかりやすい」と答えている。しかし「授業中の発言」に関する評価が、児童・保護者・教員ともに今年度も低い評価となっている。
 - ・児童が自分の考えに自信がもてるよう、校内研究で取り組んだ対話形式の学習や、3人～4人のグループでの話し合いを、国語の授業以外での活用を一層進める。少人数での発言を元に、学級全体での話し合いにつなげられるような学習活動を工夫し、活発な意見交換が見られる授業改善をさらに進める。
 - ・引き続き、児童にとって「分かる授業」「楽しい授業」を目指す。また、学力向上支援講師や少人数指導講師の効果的な活用法を工夫するとともに、「北町タイム」を充実させて、一人一人の児童の基本的な学力の定着・向上を図る。
- 教員の資質向上に関しては、若手教員もベテラン教員も協働して校内研究を進め、成果を上げている。しかし、年々特別な配慮を要する児童が増加している。教員の特別支援教育に関する研修を充実させる。
 - ・児童理解の方法など生活指導に関する校内での研修を複数回実施し、研修を深めさせるとともに、発達障害の児童の特性を知り、対応方法を身につけさせる。
 - ・スクールカウンセラーや心のふれあい相談員と連携して、児童の心の安定を図るとともに、受容的な学級の雰囲気作りに努めさせる。
 - ・各学年をベテラン教員と若手教員が組むような構成を工夫して、各学年団をグループとしたOJTが実施できるように組織する。それをもとに学習指導力や分掌事務遂行力を相互に磨き合えるよう工夫・改善する。
- 開かれた学校づくりを一層進める。
 - ・学校参観に関しては、保護者の参観数は80%を超え、保護者アンケートによる意見、感想は概ね好評であった。来年度も6月から2月までの第2土曜日を原則学校公開日として設ける。
 - ・学校だよりを通じて日頃の教育活動を地域の方々にも紹介する。また、直近の学校の活動や情報を保護者はじめ多くの方に知らせる意味からも、学校HP担当を組織して、学校ホームページの活用・充実をこれまで以上に図っていく。
- 安全で安心な学校体制をつくる。
 - ・学校で起きた子供に関することは、早めに必ず保護者に連絡を取って情報を共有化するとともに子供たちの健全育成にむけて、学校・家庭が同一歩調で課題の解決に当たる。
 - ・学校連絡メール配信を今年度途中に導入して、活用を図っている。来年度も適切かつ迅速な運用に努めるとともに、安全・安心な学校環境の維持・管理を図る。
 - ・安心安全ボランティアの方々に来校者に気配りしていただくとともに、教職員も声を掛け合って校内の安全チェック体制を強化し、児童が安心して学校生活を送れるようにする。